

科目名： 幼児理解と教育相談 (必修 2単位)		担当教員名：松本恵美・小山田佑奈 担当形態：オムニバス	使用テキスト：出版社名・テキスト名 特になし
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び 生徒指導、教育相談等に関する科目	施行規則に定める科目区分又は事 項等	幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎 的な知識を含む。)の理論及び方法
<p>授業の到達目標及びテーマ： 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結び付けて考察する力を身に付ける。また、幼児の発達や学び及びその過程で生ずるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要： ○教育相談の意義と理論を理解する。 ○教育相談を進める際に必要な基礎的な知識(カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む)を理解する。 ○教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。 ○発達障害の理論と対応を理解する。また、コミュニケーションスキルを獲得する。 ○幼児理解についての知識を身に付け、考え方及び基礎的な態度を理解する。 ①幼児の遊び及び生活の実態に即した幼児理解の意義を理解している。②家庭、幼稚園、地域等の幼児を取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義を理解している。③幼児理解から発達及び学びを捉える原理を理解している。④幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。 ○幼児理解の方法を具体的に理解する。 ①観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 ②個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解している。③幼児のつまずきを周りの幼児との関係及びその他の背景から理解することができる。④保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解している。 ○アクティブラーニング型授業を心がける。</p>			
回	項 目	内 容	
1	オリエンテーション及び教育相談の 意義と役割 (松本恵美)	冒頭で授業の概要の説明を行う。教育相談の意義と役割について理解する。	
2	発達障害の理解と援助 (松本恵美)	教育相談を進める際に収集すべき情報およびそのアセスメント方法について学ぶ。収集した情報の解釈の仕方や、その情報に基づいた指導や援助方法について理解する。	
3	発達アセスメントと援助 (松本恵美)	自閉スペクトラム症、ADHD、LDに関する特徴について理解を深め、基本的な関わり方や援助方法について理解を深める。	
4	カウンセリングに関する諸理論 (松本恵美)	カウンセリングの基本的な理論、主に精神分析理論、自己理論、認知行動理論について理解する。	
5	応用行動分析に基づいた子どもへの 関わり方 ①三項随伴性の原理・行動の原理 (松本恵美)	行動分析にえる、三項随伴性の原理・行動の原理を学び、身の回りの事例について考えながら、理解を深める。	
6	応用行動分析に基づいた子どもへの 関わり方 ②正・負の強化と弱体化に基づいた スキル (松本恵美)	正・負の強化と弱体化について学習し、それに基づいた指導や援助の方法について理解する。 具体的な事例について考えながら、対応方法について理解を深める。	
7	応用行動分析に基づいた子どもへの 関わり方 ③スモールステップの原理・プロ ンプト (松本恵美)	スモールステップの原理やプロンプトの考え方について学び、それに基づいた子どもへの関わり方について知る。具体的な事例について考えながら、対応方法について理解を深める。	
8	保育の出発点として幼児理解 (小山田佑奈)	幼児理解と指導案の作成・実施・評価との関係を学ぶ。	
9	幼児の発達に関わる様々な課題及び 幼児の発達や学びの過程を捉える視 点 (小山田佑奈)	統計の資料や保育実践事例から幼児の気になる行動を捉える。また、遊びの中で幼児が何を学び、身に付けているかを読み取る(評価)。	
10	幼児の自己表現と受容する他者との 関係及び「自分」の世界と「友達」 の世界の広がり (小山田佑奈)	幼児と保育者の温かい関係・信頼関係の重要性。また、協同性の「育ち」を捉える視点について学ぶ。	
11	気になる子どもの事例から学びまた 気になる行動への教師の対応(姿) と周囲の用事の受け止め (小山田佑奈)	けんかやつまずきの場面から個の育ちと集団の育ちを読み解く。また、教師の対応(姿)から周囲の幼児は何を学んでいるかを考える。	

1 2	観察・記録の方法と分析・考察の視点及び演習：観察・記録の実際 (小山田佑奈)	幼児の発達や学びを捉える観察及び記録の方法と幼児の遊びの様子を観察し、記録する。
1 3	発表と協議、観察・記録のまとめについて (小山田佑奈)	グループ討議から、多様な見方、考え方に気付く。
1 4	観察・記録からの幼児理解と学びの読み取り(評価) (小山田佑奈)	学びのつながり、「幼児の終わりまでに育ってほしい姿」を知る。
1 5	子育てに関わる現代的な課題の特徴及び支援体制の整備と家庭や地域との連携 (小山田佑奈)	統計資料や事例から子育て支援の課題を捉える。また、園内の協力体制と専門機関などとの連携の在り方について学ぶ。
	期末試験	教育相談(50点) 幼児理解(50点)
<p>参考書・参考資料等： 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領(平成29年3月告示) 初めての傾聴術、教育相談の理解と実際、その他各授業の学習テーマに応じて提示する。</p>		
<p>学生に対する評価方法：①・②の合計点 ① 教育相談…課題への取り組み(20%)、試験(30%) ② 幼児理解…課題への取り組み(20%)、試験(30%)</p>		